

恵庭市民文芸の会創立 50 周年記念・恵庭市民文芸第 51 号特別企画
「戦後 80 年—恵庭市民の戦争記憶」関連事業

硫黄島を忘れてはいけない！

ノンフィクション作家 酒井聡平氏講演会

(令和 6 年・第 11 回山本美香記念国際ジャーナリスト賞受賞)



講師：酒井聡平氏

(遺骨収集で硫黄島地下壕を探索中の様子)

- 日時 R7 年 7 月 13 日(日) 14:00~16:00
- 場所 恵庭市民会館 大会議室
恵庭市新町 10 番地
- 定員 100 名 (先着順)

入場無料



(2023 年 講談社刊)

講師紹介／1976 年、北海道生まれ。2000~2007 年、千歳民報記者。この間の民報恵庭支局長時代に恵庭市民文芸常連投稿者だった故三浦孝治氏と出会い、硫黄島遺骨収集の事情を知る。その後、新聞記者として硫黄島現地取材を強く希望し、2007 年北海道新聞社に移籍。東京支社報道センター在勤中 4 回硫黄島に渡る(内 3 回は遺骨収集ボランティア)。現在は道新静内支局長。北海道ノンフィクション集団会員。

山本美佳記念国際ジャーナリスト賞／2012 年、シリア内戦を取材中銃撃により殺害された山本美佳氏の業績を講え、かつ同氏のジャーナリスト精神を引き継ぎ、果敢かつ誠実な国際報道に努めた個人に贈られる賞として創設された。

趣旨

今年は、5 年の長きにわたった太平洋戦争が終わって 80 年の節目の年になります。日本は昭和 20 年 8 月 15 日、広島・長崎への原爆投下とソ連軍参戦によってようやく敗戦を受け入れましたが、戦没者は軍人・民間人含め約 310 万人に達し、恵庭市では 400 人近くの戦死者(日中戦争期を含む)が記録されています。戦争末期の昭和 20 年 3 月、日本本土防衛最後の砦といわれた硫黄島は猛烈な攻撃を受け、「父島の皆さん、さようなら」と別れの電報を打電した 3 日後、最後の総攻撃を敢行し 2 万 3000 人の守備隊は 2 万 2000 人が戦死、陥落しました。戦争終結後、硫黄島への上陸は厳しく制限されて日本兵 1 万人は行方不明のまま。遺骨収集は遅々として進んでいません。何故か？ その実相を探るため、講師の酒井聡平氏は新聞記者として初めて硫黄島に渡り、現地取材と遺骨収集作業にも加わり、そして、ご遺族関係者、関係省庁等への取材を重ね、『硫黄島上陸—友軍八地下二在リ』を著しました。当日は、「遺骨を家族の元へ返すまで戦争は終わらない」との強い思いを熱く語ります。戦争は決してしてはいけない悲劇です。一人一人の市民に戦争と平和について考えてもらうため、この講演会を開催します。ぜひ、ご来場ください。

主催／恵庭市民文芸の会

後援／恵庭市 恵庭市教育委員会 恵庭市遺族会
恵庭ユネスコ協会 あの戦争を語る会 恵庭市文化協会

■ 問合せ先 高橋 (TEL/090-2051-4239)